平成21年度 市長との対話会(タウンミーティング) 若葉区会場 議事録

日 時:平成21年11月29日(日) 10:00~12:15

場 所:若葉保健福祉センター 大会議室

参 加 者:44名

■開会

【原企画課長】

定刻となりましたので、ただいまより、市長との対話会、10 年後 20 年後のまちづくりの 方向性について、を開会させていただきます。本日の進行をさせていただきます企画課の原 と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、進行にあたりまして、本日のスケジュールと連絡事項を申し上げます。まず本日のスケジュールですが、はじめに市長から、新たな基本計画の策定や本市を取り巻く状況などにつきまして、ご説明をさせていただきます。その後、市長とご来場の皆様方との意見交換に入らせていただきます。

次に、連絡事項でございますが、本日配布させていただいている式次第の中ほど、2のところに、お願いを記載させていただいておりますので、大変恐縮ですが、皆様におかれましてはご一読いただけたらと思います。ご不明な点等ございましたら、お近くのスタッフまでお声かけてください。

よろしいでしょうか。それでは、市長、よろしくお願いいたします。

■市長からの説明 テーマ『10年後、20年後に向けたまちづくりの方向性』について 【熊谷市長】

皆様、おはようございます。今日は日曜日の午前中にこうして大勢お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

私が市長に就任いたしまして半年近くになってまいりましたけれども、その時から申し上げておりますのが、とにかく市民の皆様方自身が納得をして、そして自分たち自身が汗をかこうと思っていただけるような、そういう市政を作っていく必要があるだろうということです。そして今回、基本計画という千葉市の行政にとっては基本的な大綱を作る時期にあたっておりますので、市民の皆様がこの千葉市をどういうまちにしていきたいとお考えなのか、そして、その中で、市民の役割というのはどうあるべきなのか、そして、私たちはどういうことができるのだろうか、そういう議論をしていただいて、そのうえで、われわれとしても千葉市の方向性を決めていきたいと思っております。

基本計画の中身ももちろん大事ですけれども、この基本計画を作るというプロセスが、実は一番大事であると思っております。千葉市の将来を決めるにあたって、それぞれの市民の皆様方が、自分の近所や周りの人たちと、どういうまちがいいんだろうね、というようなことを話し合って、参画するために何か行動を起こすという、そういうプロセスが、私は最終的に千葉市の未来にとって、一番大事なことであると思っております。

千葉市の基本計画をつくる、この流れを、千葉市の市民が主役のまちづくりをする最初の

スタートにしていきたいと考えておりますので、どうぞ建設的なご議論をいただきまして、 千葉市の将来を明るいものにしていきたいと思っております。

それでは説明に入ります。

今日の説明の流れです。まず、先ほど申し上げた基本計画の策定について、そもそも基本 計画とは何ぞやということを、説明させていただきます。

その次に、その基本計画を作るにあたって、皆で共通の認識を持たなくてはいけませんから、今、千葉市がどういう状況にあるのか、そして社会経済情勢がどう変わっていこうとしているのか、そしてまた、千葉市の財政状況ですが、いくら、こういうまちにしたいというものがあったとしても、先立つものがなければ何もできません。そのお金が今どういう状況にあって、今後どうなっていくのか、その点についてお話を申し上げます。

そして、千葉市は財政が危険な状況に入っておりますので、その危機的な財政状況をどう これから直していかなくてはいけないのか、そういう点について、ご説明を申し上げます。

そして最後に、本題となりますこれからのまちづくりについて、どういうまちをつくっていくべきなのか、今日の議論の中で、こういうテーマで議論をしていきたいという、そういうお話をさせていただきたいと思っております。

まず、基本計画の策定についてお話をさせていただきます。

基本計画が、千葉市にとってどういう位置づけであるのか、ということをお話させていた だきます。

行政ですから、ある程度の計画的な仕組みがございます。千葉市にはまず基本構想という 千葉市の市政の基本的な理念、これは非常に大きなものでして、たとえば弱者に目が向く市 政だとか、住んでいてよかった、誇れるようなまちにしたいですとか、非常に大きな理念が あります。

それに従って、「ちば・ビジョン21」という、これは計画期間が平成13年から27年の15年間を対象にした基本計画というものがございます。構想に従ってどういうまちを作っていくのか具体化したものが、この基本計画です。

その下に、実施計画という5か年の計画、現在は第2次5か年計画の期間中ですけれども、 これは平成18年から22年の5年間になっております。

この基本計画について、平成 13 年から 27 年ですけれども、策定したときと比べて、社会 経済情勢が大きく変化しておりますので、時代に合わないところもたくさんございます。なので、この機会にもう一度見直しをして、15 年は長すぎるので、10 年間という軸で考えていこうというのが、ここです。

そして、その下の実施計画についても、これは具体的に予算を何百億円使って何を作るとか、どういう制度を作っていくとか、そういう計画です。しかし、5年間ではちょっと時代に追いつかなくなる、そういう時がございまして、毎回のように見直しをせざるをえない状況になっておりますので、ここも3年間にしたほうがいいだろうというのが、私たちの考え方です。

では、基本計画を作るにあたって、どういうことを考えていかなくてはならないのかということです。

今までの基本計画と今回は、全くわけが違うと思います。なぜならば、今までの基本計画を作るときは、人口も増えていきますし、社会も大きくなっていくという、基本的には右肩上がりの、今までの時代の延長線上の中で、どういうまちを作っていくのかを議論すればよかったんですね。しかし、これからの10年間なり20年間というのは、日本が、千葉市が大きく変わっていくときです。人口が減少したり、高齢化が進んだり、ありとあらゆる環境が激変する中において、10年後を決めなければいけないという、今までの基本計画の中では、もっともちゃんと考えていかなければいけない時期にあるということです。

具体的には、人口減少社会です。人口が減少するというのは、日本の歴史上初めてのことですから、これは、全ての常識が変わるということです。ここが、一番大きなポイントです。 それから、地球の温暖化も進行してまいります。環境問題が問われていきます。

それから、分権型システムへの移行ということで、どんどん地方分権が進んでいって、市 で行うべき範囲が広がってきます。責任も広がってまいります。

それから、少子高齢化社会ということで、子どもが少なくなる、そして高齢化が進んでいくということです。

そして、集約型都市構造への転換ということで、少子高齢化になれば、今までのように膨脹を前提としたまちづくりというのも限界を迎えてきます。しぼんでいくわけですから、そういうときに、例えば陸地の孤島みたいな場所が出てきてしまったり、郊外型の、車で行く前提のショッピングセンターなり、そういうものを前提としたまちづくりも限界が出てまいります。そういう意味において、できるだけまちを集約する、まちの機能を集約させていく、いわゆるコンパクトシティの考え方が必要になってくるということです。

それから、市の財政状況の悪化です。これは、今までと違って財政がいつも苦しい中での やり繰りを迫られますから、そういう大前提が変わってくるということです。

そういったものを受けて、新たな基本計画を策定していかなくてはなりません。その中に、 多様な主体、市民であったり企業であったり NPO という、行政だけではない様々な主体が入 っていけること、そして、それぞれの区の特徴を活かせることが必要であろうと、そういう 風にわれわれも考えております。

先ほど申し上げたことがこれです。現基本計画は 27 年までだったものを、新たな基本計画は、平成 24 年度から平成 33 年度までの 10 年間を対象としております。

主な日程は、先月、その計画を策定する本部を設置いたしました。その次、今がまさにそうですけれども、今月から来月にかけて、各区でタウンミーティングを行います。そして、このタウンミーティングだけで当然私は終わりだとは思っていませんから、その後、来年の1月から5月に、市民ワークショップということで、もう少し少人数で、市民同士でご議論を頂いて、何かを作り出して頂くワークショップを重ねて頂きます。

来年の8月に計画の原案を作成し、そして、まちづくりの専門家である学識経験者の方を 交えた審議会で、再来年の2月まで議論して頂いて、その上で、4月にある程度案を固めて、 パブリックコメント手続き、これは広く市民の皆様方からあらゆる意見をちょうだいする手 続きですが、これを経て、6月に計画を策定と考えております。 1年半におよぶ長い期間ではありますけれども、冒頭で申し上げたとおり、この作る過程が私は非常に重要だと思っておりますので、この中で、どれだけまちづくりに対する市民の皆さんの関心を寄せて頂けるかが、私たちは重要な鍵であると思っております。

それでは、千葉市を取り巻く状況について、ご説明申し上げます。

ここにありますのは、先ほど申し上げたとおりの話でございます。

まず、人口の見通しです。

千葉市というのは人口がずっと増えてきました。全国の県庁所在地の中で、一番人口が戦後増えているのは、この千葉市です。他の県庁所在地というのは、大名の城下町であったり、昔から地域の中心地であったケースがほとんどですけれども、この千葉市というのは、どちらかというと、戦後に本当の意味で急激に大きくなった、日本の右肩上がりを象徴するような大都市の一つであるということです。

それだけ人口が増えてきたものが、これから人口が減少するということになります。今のところの見込みでは、平成27年に97万人まで増えて、ここから減少に転じます。ちなみに、今は、95万6千人ほどです。この今まで急激に増えた人口が減るというのは、このグラフが象徴しているとおり、ジェットコースターくらいの影響がある、衝撃があるということです。ここをちゃんと見据えて、われわれは計画していかなければいけない、今までのようなイメージでいくと、ここで痛い目にあうということです。

人口が減少するのと同じように、高齢化社会へと進展してまいります。65歳以上の高齢者の方々の比率は、平成17年から10年間で、16.6%から25.1%に急増いたします。そして、平成47年には33.2%、3人に1人が65歳以上という社会が迫ってくるとなっております。これは、まず高齢者の方々が増えるということは、当然、介護や医療や様々な方々を保障していくための費用も上がっていきます。しかし、逆に考えれば、それだけ、この方々をまちづくりの中で活用していくことが大事だということです。今までみたいな高齢者の扱いではなくて、高齢者も含めて、どうやって一緒に汗をかいていくのか、ということが、そのまちの力を私は引き出すんだと思っております。

先ほどお話した社会保障費、これはちょっと細かいグラフですけれども、棒グラフを見て 頂ければわかるように、医療や年金や福祉というものが右肩上がりで増えてきております。

見て頂きたいのは、黄緑色の折れ線グラフです。これは、国民の所得に対してどれだけ社会保障費があるか、給料が増えていった中で年金や社会保障費が増えるのは当たり前ですけれども、さらに言うならば、所得が増えてもそれ以上に社会保障費が増えてきているというのがおわかり頂けると思います。これからも、この流れは続いてまいりますので、社会が社会保障費にあてなければならないお金の比率が、その分どんどん増えてくるということになります。

それをならしたのが、このグラフになります。このとおり、年金も医療も増えてまいりま

すし、福祉も増えてくるということで、こういう形で社会が負担しなければならないコストというのが、当然のように増えてくるということになります。その分、自由に使えるお金は 当然減ってくるということになります。

そういう中で、千葉市の財政状況が、今どういう状態にあるかということです。

この千葉市は政令指定都市に移行してから、非常に急ピッチで都市基盤、これは道路であったり下水道であったりしますが、そういったさまざまな施設の整備を、急ピッチで進めてまいりました。その結果、例えば下水道などでいえば、政令市の中で見劣りしない整備率になっております。

わずか 20 年弱の期間で、一気に他の政令市に追いついたがために、当然のように借金も増えてまいりまして、いまや1兆円を超える、そういう状況になっているということであります。そして来年度の予算平成では、270 億円足りないということで、出さなきゃいけないお金に対して、全然収入が足りないということです。270 億という、前代未聞のお金が足りない状況にあります。

今までは、お金が足りなければどうしていたかというと、当然借金をしていたわけです。 もしくは、借金の返済を後にまわしていたとか、そういう自転車操業を若干やっていたんで すけれども、これをやりますと、今までのようにいかなくなっております。

夕張市が破綻してから、国で地方財政健全化法という法律ができまして、借金をしすぎている自治体に対して、国が、このままではここはだめですよという、イエローカードなりレッドカードを出すようになりました。そのイエローカードが、早期健全化団体、早く健全化しないとまずい団体ですよということです。これがイエローカードになります。

これが実質公債費比率、ちょっと言葉が難しいんですけれども、これはどういうことかと言うと、収入のうち借金の返済にとられてしまうお金の割合です。借金で首がまわらないと考えて頂ければと思いますけれども、これが千葉市は25%を超えてしまう、今のままいくと、平成24年度に超えてしまいます。

25%を超えると、先ほど言った、早期健全化団体つまりイエローカードを、国から指定されます。どうなるかと言うと、おそらく新聞の一面などで、千葉市が大都市で初めて早期健全化団体に転落、という文字が躍ってしまうでしょう。そうすると、千葉市に住む人が一気に少なくなる可能性があるということです。

このままだと25%を超えてしまいますから、もう少し、この赤い色のカーブにするために、 われわれは財政を建て直さなければならない、というのが今の状況です。

では、具体的にどう財政を健全化させようと私たちが考えているのか、ということです。

ご存知の方も多いと思いますけれども、先月、私は「脱・財政危機」宣言を出させて頂きました。このままではだめだと、だから建て直すんだという決意を込めた宣言です。

財政危機宣言もしくは財政非常事態宣言というものは、他の市でも実は過去に出しています。川崎市であったり広島市であったり、このままの見通しでいくと危ない、だから直しますというような宣言を出しているところはあります。千葉市がちょっと違うのは、首都圏にある政令市では、比較的財政力が豊かです。市民一人あたりの納税額も高いですし、十分克

服が可能であると、そういう意味も込めて、「脱」という文字をつけさせて頂いて、脱出しますよ、できますよという決意を込めて、申し上げさせて頂きました。

具体的に何をやるのかということです。まず収入を増やす方法として、市税の徴収率を増やしましょうということです。実はこの千葉市は、政令指定都市の中で最も税金の徴収率が低いんです。払って貰わなければいけない人たちから、正しくお金を取れていなかった団体が、この千葉市です。ですので、ちゃんとお支払いをして頂ける方、払わなければならない方にちゃんとお金を払って頂くことが必要です。これは、逆に言えば真面目に払っていた人が、割を食っていたということになります。払って貰わなければいけないのに払わなかった人の分まで、真面目に払っていた人が負担をしていたということになります。そういう不公平を生み出してはいけない。

ただし、もちろん、お金のない方に対しては、例えば分割払いに応じるだとか、減免の措置をとるだとか、そういうきめ細かい措置は必要ですけれども、少なくとも、払えるのに払っていない人たちに対しては、ちゃんとお金を取らして頂くということです。

それから保有資産の有効活用、売却ということです。千葉市が持っている土地であったり、 もしくは役割を終えた施設などを、もう一度見直しをして、そうしたものを民間に売却した り、もしくは民間に任せたり、有効活用していかなければいけないということです。

それから、受益者負担の適正化です。これはですね、少なくともその施設を使って利益を得ている人に対しては、相応の負担はして貰わなければいけないだろう、ということです。もちろん、思い切り値上げをするという話ではありませんけれども、例えば、下水道の料金というのは、千葉市は他の政令市と比べても低いほうだったりします。例えばコミュニティセンターを使うときも、今はただですよね。しかし、他の市を見ても、コミュニティセンターを使うときに、ただではなくて、最低限のお金を取らせて頂いているところの方が比較的多いんです。

別に1万円取るとか民間と同じ位取るとか、そういう話ではもちろんありませんけれども、 しかし最低限、そこを使っている以上、電気代なりなんなりの負担はして頂かなければいけ ないだろうというのが、われわれの考え方です。

それから、コスト削減という意味で、やはり市民の皆様方にある程度の我慢やご負担をお願いする以上、まずは自分たちが見直さなければということで、私と副市長の給料というのは、9月に議会にご承認を頂いて10月から大幅にカットしております。ただ、私や副市長がいくら頑張ってもたかが知れておりますので、職員全体として、人件費を見直していかなくてはと思っております。

それから、民間機能の活用ということで、民間ができるものをやっていないか、民業の圧 迫に通じるようなことをやっていないかということです。とにかくわれわれは、行政がやら なくてはいけないことに集中的にお金を投資するためにも、民間ができるようなことについ ては極力手を引いて、民間に委ねていくというプロセスを、やっていかなければと思います。

それから、国でも天下り団体の話がよく言われておりましたけれども、千葉市においても、少なくとも役割を終えた外郭団体については、統廃合していくなり見直していかなければならないだろうと考えます。そして、そこに行っていた OB の人たちが、私は OB が外郭団体にいくことを全て否定しているわけではありません。優秀な人であったり、行政のことをよく知っている人が、必要な場合も当然あります。しかし、少なくとも OB の人たちを受け入れる

前提で作っているポストについては、当然のように見直していかなければならないということです。

それから、事務事業の徹底した見直しということで、いま、一昨日ですかね、事業仕分けが国の方で終わりましたけれども、あれと同じようなことを千葉市でもやっております。10月から11月の頭にかけまして、外部の方々をお招きして、千葉市の事務事業について、ヒアリングをして頂きました。そして、国と違うのは、われわれは少なくとも、関係する人たちや受益者の人たちの意見を聞く場を設けておることです。そのヒアリングの時に傍聴に来られた方も、3分限定ですけれども、意見を言うことができました。それを聞いたうえで、民間の方たちが判断するという仕組みです。

どんな事業でも、100%無駄なものはありませんし、恩恵をこうむっている人たちも確かにおりますので、そういう人たちの意見を聞いたうえで、判断することが必要だろうということで、そういうプロセスを取らせて頂いております。ホームページなどにも対象の事業を挙げて、インターネットやファックスでも意見を求めました結果、600 件を超える意見を頂いております。

そういう意見を踏まえて、私たちは予算編成の中で、それぞれの事業をどうしていくのか ということを判断していくわけです。少なくとも、あらゆる市役所の仕事について見直しを していかなければいけないという、そういうことでございます。

それから、建設事業の厳選ということで、公共事業についても当然見直していかなくてはいけません。一律にカットするのではなくて、例えばもう少しで道が開通するとか、もう少しでできるという、そうした効果がもう少しで発揮できるものに関しては、優先的にお金を使っていきます。一方、例えば用地の買収率が5%だとか、まだまだ20年かかるようなものについては、しばらくの間凍結をしていったり、そもそもこれが本当に必要なのかということを考えて見直し、厳選していかなければということです。

こういう基本的な考え方に立って、行政改革の推進プラン、これはどういう風に行政改革 をしていくのか、それから、財政をどう健全化していくのか、具体的な金額や道筋を示した プランですが、これを今年度の末までに、策定して公表する予定になっております。

具体的にどういうものかと言いますと、計画期間は平成22年度から平成25年度の4年間で、内容は、まずは計画的に財政運営をしようというものです。先ほどみたいに、いきなりもうだめだと言って財政危機宣言をするようなまちではなくて、ちゃんと長期的な視点にたって計画的に財政運営をしていきましょうということです。

それから、簡素で効率的な行財政運営ということで、先ほど申し上げたとおり、民間でやっていることを重複してやるだとか、そういうものではなくて、常に見直しをしていって、スリムな、税金が極力効率的に使えるような運営体制をやっていこうということです。

それから、財政基盤を強化していこうということで、自分たちである程度しっかりとお金 が取れるような、そういう安定した財政基盤、体力をつけていこうということです。

それから、市民とともに構築し、市民に信頼される行政運営ということで、市民と一緒になって、今日のこういうプロセスもそうですけれども、市民の皆様方とちゃんと意見交換をして、そして市民に信頼、納得をされるような行政運営をしていこう。そのためには、積極的に私たちの持っている情報を出していこうというものです。

そして、市民の視点による行政サービスの向上ということで、もう一度、市民の視点に立って、何が求められているのか、市役所というのは市民の役に立つ所と書くわけですから、 もう一度そう思って貰えるようなサービスを目指していこうということです。

それから、新たな執行体制ということで、こういうものを実現するためには、まずは組織を見直していかなければということです。現場重視に変えていかなければなりません。より市民の皆様方の声に接する現場のところに、より権限なり力なり人材を注いでいって、そして市民の声に沿って的確に判断したり、もしくは現場の課題を着実に解決できるような、そういう組織体制が必要だろうということです。区役所の機能の強化、例えばこの若葉区であったら、若葉区民の皆様方のお考えや、若葉区民の皆様方の提案が、ちゃんと市役所全体に反映されるような、そういう区役所体制の強化が必要だろうということです。

それから、そういうものを支えていくには、血液のように体をめぐるのは当然職員でございますから、その職員の能力、モチベーション、市民感覚であったり民間目線であったり、そういう感覚を含めて、人材の育成と活力の発揮が必要だろうということです。

ここまで、千葉市の現状なり、取り巻くものについてお話をさせて頂きました。そして、 これからのまちづくりについて、お話しをします。

これからのまちづくりを考えるにあたって、今まではどうだったかと言いますと、国がやり、そして国がやらないものを県がやり、県がやらないものを市がやり、そして市から自治会などの地域コミュニティや市民の皆様方にお願いをしていくという、こういう流れだったと思います。

今、国でも地方分権の議論が行われていますけれども、私はこの議論も本当はおかしいと思っているんです。なぜかというと、国がやっている事業のうち、どれが県や市ができるかという議論です。これは逆です。もともとそうではなくて、全ての行政事務をもう一度、国県市の区別なく全部出して、まずは市がそのうちどれができるんだということをやって、そのうち県がやって国がやるという逆の発想でなければ、地方分権というのはおかしな話になってきます。

ですから、われわれはどういうものを目指していかなければいけないのか、と言いますと、まずは、市民の皆様方がまちづくりをどうできるんだと、それから、個人ができないことを地域コミュニティが補完していき、それでできないものを市が補完して、市ができないものを県が補完して、県ができないものを国が補完していくという、こういう考え方でなければなりません。

自治というのは自ら治めると書くわけですから、自分たちが考えて、自分たちが判断して、 自分たちが選んで、自分たちが汗をかいて責任をとるというのが、本来、自治の姿でありま す。しかし、市民の皆様方も仕事があったり、いろいろな課題があったりするがために、当 然、全てできるわけではありません。だから、税金というものを払って、そして行政組織と いうものを作って、そこが、サポートや補完をしていくというのが、もともとの考え方だと 思います。

ヨーロッパのまちづくりというのは、本来、こっちからスタートしているわけです。ですから、われわれも、上から落ちてきたような、そういう自治ではなくて、自らまず考えて、

自らまちづくりがどうあるべきなのかというのを考えたうえで、行政組織というのが、どう あるべきなのかという考え方に、私は立たなくてはいけないと思っております。こういう議 論を私はしたいと思っております。

ですので、このタウンミーティングは、決して陳情や要望を受け付けて、市役所の皆さん 考えてくださいという、そういう場ではございません。そうではなくて、市民の皆様方が、 どういうまちを望んでいて、そのまちのためにはどうあるべきなのかをお考え頂いて、その 中でそういうことを市民がやるために、行政はこう変わらなければだめだ、もしくはこうい う制度を作っていかなくてはだめだと、そういうお話を今回ここでしたいと思っております。

タウンミーティングで皆様と意見交換したいのは、そういう前提に立ちまして、10 年後、 千葉市はどういうまちになるかということです。

10年間じゃなくて私はいいと思っているんです。20年後、30年後も含めて、千葉市が将来どういうようなまちになるべきか、もしくは、千葉市が全国の中で比較して、どういう強みと特徴を持っていて、だからこうやっていけばこのまちは全国に誇れるようになるし、ずっと住み続けたい、住んでよかったと思えるまちになれるのか、千葉市が今後どうしていくべきか、どこに力を入れるべきか、そういったお話を伺いたいと思います。

お金と人には限りがあります。これからは、増えていく時代ではありません。ですから、 どこに、特に焦点をあててやっていくべきとか、そして、行政だけではなくて、いろいろな 力を活かして、どういうようなまちを目指していくべきなのか、そういうような議論をして いきたいと思っております。

皆様方との議論を経て、われわれも計画に反映をさせていきたいですし、これは、これで終わりの話ではございません。これがスタートで、市民の皆様が、それぞれの地域においてご議論頂いたものを、1年半かけて、われわれも計画の中に取り込んでいきたいと思っておりますので、是非とも活発なご提案、ご議論をお願いしたいと思います。

■意見交換

【原企画課長】

これから、市長とご来場の皆様方との意見交換となります。

できるだけ多くの皆様方にご発言頂けますよう、お一人3分以内で、簡潔にご発言を頂きたいと思っております。30秒前くらいになりましたら、このように30秒前の札を出させて頂きますので、ご意見をおまとめ頂ければと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

それと、ご発言の前にお名前を頂けたらと思っておりますので、よろしくお願いいたしま す。それでは市長、よろしくお願いいたします。

【熊谷市長】

それでは、トップバッターをやるぞという方、挙手をお願いします。

【市民A】

自分自身で何ができるかと考えたときに、花が好きでやっているんですけども、花を増や

すと、花友だちって言うんですか、通る人が話しかけてくれるんですね。ここの通りを「あいさつ通り」ってつけようかな、なんて思うんですね。

みんなに話し掛けて、花の苗をあげたりもらったり、すごく楽しいです。種から増やして、 挿し木で増やして、お金をかけなくても毎年咲くようになるんです。そういうことでコミュ ニケーションが取れるかなと、自分たちでできる事は、要望ばかりでなくて自分でしたいな と思っています。

【熊谷市長】

ありがとうございます。

花を通した地域づくりだと思うんです。もしよろしければ、美観なり、景観なりを含めて 地域のコミュニティ作り、そういった方向で意見を言いたいという方、挙手をお願いします。

【市民B】

街路樹の問題で、ちょっと申し上げたいです。言わんとすることは、縦割り行政を何とか 考えてほしいと言うことなんですが。

街路樹の問題は、先程、5年先10年先と仰いましたが、まさに今が大事な時期なんです。 昨日も筑波山から鬼怒川へ行って帰ってきたんですが、街路樹が本当にきれいです。

あと、生活の上で街路樹は大きな問題となっているんです。落ち葉の問題、障害物の問題です。道路が根張りでめちゃくちゃになってしまう。木は美観じゃなしに半分障害物だということもあります。

市はどうかと言いますと、植える方は公園管理課がやっているわけです。それで、大きくなって邪魔になるからと言うことになりますと、維持管理課、土木になってくるんです。

街路樹は全部、緑の協会に委託されています。千葉市の街路樹の予算は7億2、3千万で、 街路樹だけの管理で出ているはずです。内部の協定など見ていると、大変問題だと思うので、 一度お調べ頂きたいと思います。

街路樹が邪魔だから切ったという事件が起きまして、昨年度、市の監査委員会に取り上げてもらって、市長を相手取ってやりました。こういう問題がありますので、街路樹という問題一つを考えても、プラスとマイナスの面が起こるということ、それをどうやっていくかについて、市もはっきりしてほしいと、お願いしたいということです。

【熊谷市長】

ありがとうございました。関連するご意見を伺いたいと思います。

【市民 C】

街路樹については、10年くらい前から、いろいろ市に申し上げているんですが、秋になると坊主にしてしまうんです。再生して、樹木として車から出る排気ガスなどを吸収することになるのですが、一般の剪定をしておけば、5月いっぱいくらいで茂ってしまうんですが、今年は坊主にするために9月初めから始まったので、結局、樹木としてはわずかな期間しか $C0_2$ の削減に役立たなかったことになります。前は10月から始めたって話でしたけど、あまりにも切り過ぎます。

この間東京へ行きました。中野区を見てみましたが、千葉とはちょっと違いますね。やはり残し方が違います、やり方が違います。それから世田谷に「けやき通り」というのがあるそうですが、そこの方々の意見を聞きますと、自分たちは夏の間、ケヤキの木からマイナスイオンを頂いて、健康に良いので、葉が落ちる時は掃除するのは当たり前だと。こういう意見も新聞で読みました。

【熊谷市長】

ありがとうございました。

街路樹は、これこそまさに、市民の考え方も問われているところがあるんです。なぜ行政 が街路樹を切り過ぎるかというと、結局のところ、落ち葉に対してクレームをつける人たち がいるから、結果的にそうなるんです。

市民も含めて考えなければいけないのは、世田谷みたいに素晴らしい街路樹にする時には、 必ずそこにマイナスも発生してくるわけです。そこに対して、地域の人たちや街路樹を愛す る人たちが、どうサポートし、支えていくかによって、街路樹も変わってくると思います。

われわれも、行政と市民がどう関わって、素晴らしい千葉市の美観を作り上げていくかということを、これからの方向性として考えなければと思います。また、そういうものがあれば地域の会話、繋がりも増えていくと思いますので、これからはそういう方向性で議論をしていかなければと思います。

【市民B】

補足しますが、ひとつは剪定です。これに計画性がないということです。

全部緑の協会に任せきりということです。街路樹のことで注文をつけますと、市の交換台は土木につなぐんです。土木はわかってないんです。予算が残っているからやったりする。 もっと計画的にやってほしいと思います。

あと、清掃の回数が減りました。落ち葉を入れるとゴミ袋がすごく重くなる。今年はドングリがものすごくなりまして、どんぐりも入れるから、高齢者が特に多い地域なんかは、高齢者のごみ出しが大変困るそうです。だから、清掃とも関連があると指摘しておきます。

【熊谷市長】

ありがとうございました。それでは、また自由なテーマでお願いします。

【市民D】

伺いたいのですが、今、市長への手紙という制度がありますが、これは引き続き続けていくおつもりですか。

【能谷市長】

もちろん、続けていきます。

【市民 D】

市長さんは、これをお読みになっていらっしゃるんでしょうか。

【熊谷市長】

全部、読んでおります。

【市民 D】

それでは申し上げますが、8月に、市長さんに手紙を書きました。それで答えが返ってきたんですが、非常に不満なのでお話したいんです。市長さんは、読んでいらっしゃらないんじゃないかと、私は思っております。

それで、若葉区の区役所に行ってお話しましたら、答えは総務課の係長さんが書いて、その答えを地域振興課へ送ったが、そうしたら何にも帰ってこなかったということです。こういうようなものが、市長への手紙という形ならば、やっていてどうなのかなと思いました。

若葉区の区役所には、区長室という表示が全くないんです。それから、若葉区の区民が、 区長さんの名前を知らないんですよ。顔も知りません。何をしているかもわかりません。で すから、区役所の中に、顔写真とお名前を掲載してください。おそらく、若葉区の区長さん のお名前を知らない方が圧倒的に多いと思います。ちょっと失礼ですが、この中に若葉区の 区長さんのお名前を、ご存知の方いらっしゃいますか。何人かいらっしゃいましたけれども、 殆んど知らないと思います。だから、区役所に区長さんの顔写真とお名前を、お出しになっ てくださいと、そのお手紙の中でお願いしたんです。

そうしましたら、若葉区の総務課の方が、係長さんですよ、全く読んでおりませんでした と、こういう事なんです。その事については全くお答えを頂けなかったというのが、現状な んです。こういう事じゃあね。

区長さんは何をしているんですか?と聞いたら、どこそこにあいさつに行っていますと、 その程度だけだそうですよ。それでは区長さんとの接点がないし、やっぱり市長さんの仰る とおりで、やっぱり区の活性化を、もっと実現しなければいけないと思います。

【熊谷市長】

ありがとうございました。

広報、広聴のお話、それから区役所、区長の役割などについてお話があったかと思いますので、もしよろしければ区長であったり区役所とか、そういう関わりや役割についてご提言したいという方がいらっしゃいましたら、お手を挙げて頂けますでしょうか。

【市民 E】

区役所の話ではないのですが、「市長への手紙」に関連してです。

ホームページには、市民の声だとかパブリックコメントだとかはありますが、市長への手紙がないんですね。だから、「市長への手紙」の電子版を作ったらいいと思うんです。

いろんな窓口がいっぱいありすぎるんですね。市民の声に対しての市役所の回答を、できたら出すような、あんまり期待できないような話が多いです。「市政への提案」とか、いろいろあります。

そういう窓口をまとめて一本化して、それに対する回答も必ず出すと、いうやり方にして 頂きたいなと考えています。

【熊谷市長】

ご意見ありがとうございます。

まず「市長への手紙」について申し上げますと、私は全部読んでいます。私がその方針について全て判断をしております。ですので、当然のように「市長への手紙」の回答についてご不満の方もいらっしゃいます。しかし行政として、また私が見てこれが適切か、直すべきか全部手を入れて、赤を入れております。

区長の顔写真の話ですが、その点について、まずその前にやらなくてはいけない事は、区 長の役割と権限の強化だと思っています。昨日も出たのですが、1年2年で辞めてしまう方 が多いので、区長の顔も覚えられないという話も出ました。私もその通りだと思っています。

将来局長をやるような人たち、将来のある人たちが区長になるべきだという話がありました。区役所の役割を強化する上で、区長の、市役所の人事の中での役割を大きく見直しをしなければいけないと思います。その上で、顔写真についても当然考えていかなければいけないです。「私が区長です」みたいな話です。そういうことはやっていかなければと思います。今、ホームページなどでも、美浜の区長が自分の言葉でメッセージを出しています。そう

今、ホームページなどでも、美浜の区長が自分の言葉でメッセージを出しています。そういう形で少しずつ、区長というものの役割、それから市民、区民への顔の見せ具合、そういうものは充分考えていかなければと思っております。

市長への手紙電子版についても、検討しています。市長への手紙も読んでおりますが、本当にいろんな意見があって、それに返事をするだけで全て時間を取られてしまう状況もあります。ですので、考えていかなければいけないのは、どういうやり方が一番いいんだろうかということです。他市のホームページを見たりしていますが、建設的な意見に対してしっかりと議論ができて、かつ市の職員がそれだけで仕事が終わってしまわない、その間の制度を、われわれは模索しているところです。

私が考えているのは、まず市民同士でも意見が言い合える場を作らなければならないということです。例えば、職員が答えなくても、市民でわかっている人が答えられるものが、実はたくさんあるんですね。そういったものについては、市民が市民に答える。これも私は互助だと思いますので、そういう形で市民同士が情報を共有し合う、アドバイスし合うような環境も、将来的には作っていかなければというのが、私の考え方です。

ここでいったんその話は終わりまして、フリーにご発言を頂きたく思います。

【市民 F】

市政だよりにも載っておりましたけれども、脱財政危機宣言ですが、支出抑制策というのがいくつかあげられていまして、その他に収入増加策というのもあるのですが、僕の聞いた率直な感想を言いますと、支出はわかりやすいんですけれど、収入増加策がこれで十分かなという気がします。

それと絡めて、今日のテーマは 10 年後、20 年後に向けたまちづくりの方向性ということですが、まちづくりっていうのは公共事業だと思いますが、必要な公共事業もあると私は思います。

市を会社に例えますと、医療だ、教育だ、福祉だというのは社員の福利厚生みたいなもので、会社は、設備投資をしなければいけません。公共事業は設備投資だと思うんです。それ

が将来の税収増になるとか、リターンが返ってこなければいけないと思うんです。

そういう中で、これからのまちづくりを、市長は具体的にどのようにお考えになっているのか、青写真でも結構ですので、お聞かせ願いたいというのがあります。

さらに具体的に言うと、幕張ですが、千葉県企業庁が持っているわけですけれど、千葉市 に住所がある訳でして、当然、千葉市に税収が入ってくると思いますが、皆さんご存知のよ うに進捗状況が芳しくない。県の事業ではございますが、千葉市としてどのような働き掛け をしているのか、その点をお伺いしたいです。

【熊谷市長】

ありがとうございます。

経済、産業、まちづくりといったお話、どちらかと言うとビジネス面のお話だと思います けれども、その関連ということで、どうぞ。

【市民 G】

収入増加策ですけれども、千葉市は市民税の徴収率が全国最低だという話を、確か92~93%だという話を、新聞で見ました。ワースト10市の中で2番目くらいに悪いです。実は、そのために花沢先生の問題が起こったんだろうと、私は思っているんです。

それから人件費の見直しについてですが、区役所に用事があって来て、各課で人はどのように動いているのかというのを見るんですが、特に保健福祉センターはいつ来ても窓口の方々だけしかいなくて、机はいっぱいあるんですが、その他の方々がどこに行っているのかわかりません。この前、税の課にも行ったのですが、係長、課長さんはどこに行っているのかなということがありました。

そういうところで、さっき組織の話も出ましたが、これから参考になればと思います。

【熊谷市長】

ありがとうございました。

ちょっと話題がずれてしまいましたので、暫くビジネスの部分の話について、焦点を当て たいと思います。まずそちらの方でご意見のある方がいらっしゃればお願いしたいんですけ れども。

【市民 H】

千葉の観光振興、経済産業振興の一環として、加曽利貝塚を世界遺産にしようという提案 でございます。

地元のライオンズクラブから9月の市議会に請願をいたしまして、全会一致で採択されました。ぜひ、行政としても取り組んで頂きたいと思います。昨年、群馬県の富岡製糸場に、世界遺産暫定リストに載ったところを視察に行ったのですが、暫定リストに載っただけで年間24万人の観光客が来ているという事です。

千葉の場合には首都圏に近いですし、もっともっと来ると思います。これによって観光振興をぜひ進めて頂きたいと思います。モノレールのお客さんも増えるのではと思います。

【熊谷市長】

ありがとうございます。

【市民I】

昔は川崎製鉄を誘致して税収を上げようとしたわけですが、これは果たして、結果的にはどうかと私は疑問を持っています。当時はやはり、工業団地を維持するのが自治体の一つのテーマになっていたと思います。今はそれが良いかどうか。逆に、市長として、税収を上げるためにどういった事業を計画されるのか。

徴収率が悪いっていうのは、こう言っちゃ悪いんですけれども、市の職員に対して疑問を持っている、困難な仕事から逃げていると思うからです。例えば違法建築についても、税収にしても給食にしても、面倒なことから逃げているんじゃないかと思います。取り組み姿勢をちょっと知りたいなと思います。

【熊谷市長】

ありがとうございます。ビジネスの話、産業振興の話がございました。

なぜ、脱財政危機宣言の中に入っていないのかについては理由がありまして、そういうものは、花が開くのにちょっと時間がかかるんです。10年後だったり、20年後だったりします。 基本計画の中には当然盛り込みますけれども、脱財政危機宣言をなぜしたかというのは、ここ3年とかが危ないからなんですが、はっきり言って、そこに直接影響は出ません。

逆にそこを目標に急いでやろうとすると、無理な設備投資になりますから、また痛みが伴います。今までそうやって来て、この借金が積み重なっている側面もありますので、そういう意味で、脱財政危機宣言に載っていないということです。

産業振興に関しては、われわれも考えております。10年後、20年後を考えてやらなければいけません。特に、人口減少社会ですから、今までのように大きなまちをドカンと作って、そこに人がドーンと住んで、雇用が生まれて、商業が発展して、それで税収が増えるということはまず殆んど成功しません。

千葉市は、タイミングが悪くてこういう状態になっているわけです。西口の再開発しかり、 その他さまざまなものについて、時機を逸してしまった。かつての再開発がなぜ成功したの かというのは、右肩上がりの時代だったから、結果的に成功しただけです。これからの時代、 再開発の手法とういのは、よっぽど練りに練り上げないと、まず成功はしないと思います。 少なくとも、行政が考えるものはほとんど失敗すると思います。

その上に立って、われわれが何を考えていかなければいけないかというのは、そういうわかりやすい産業振興ではなくて、工業団地も今はたぶん 100%失敗しますね、そういうものではなくて、例えば中小企業であったり、商店街であったり、そうしたものを金融支援と絡めながら、どうやってサポートしていくか、先端の技術開発をしていくようなベンチャー企業をどうやって育成していくのか、そういうことが問題になってまいります。

それから、一番大事な事は住政策です。なぜならば、人口が増えたから結果的に産業も振興したんです。これからは右肩下がりですから、人口が減って、消費層が減っていくようなまちに工業団地をいくら作ろうと、商業にジャブジャブお金を投じようと、企業はやってまいりません。そういう意味において、生産力であり、雇用であり、消費力を維持するために

は、極力人口を減らさない住政策というのが大切になってまいります。

この千葉市というのは、団地が多いまちです。一番団地が多い大都市でもあります。そして、今まで千葉市というのは、千葉市に住みたくて住んでいる人が、住んで来たまちではない、という事が大きなポイントです。国民が増えていく中で、船橋や市川、東京に住めないから、家が買えないから千葉市に住んで来た人がたくさんおりました。しかしこれからは、人口が減ってきて、東京、市川、船橋で家が買えちゃうわけです。だから引き潮が引くように、住むフロンティアが引いていくわけです。そういう意味においては、船橋、市川ではなくて、あえて千葉市に住むという人をつくらない限り、この千葉市は一気に人口が減っていくまちだという、そういう背景を持った特殊なまちだということを、実は申し上げたくて、県庁所在地で、戦後爆発的にこんなに人口が増えたのは千葉市だけですよと、申し上げました。

これは意外と、千葉市民の皆さんは、お分かりになっていない方が多いんです。この千葉市が、もともと90万の都市にはならない環境にあったまちだ、ということがわからない。だから住政策を真剣に考えていかないと、産業振興とか言ってる場合じゃなくなるところが、やがてやって来ると思っております。

人件費の見直しのところは、一応フォローしておきますと、普通のオフィスとは違いまして、区役所は現場ですから、殆んどの人が現場対応に出ております。庁内でも相談室にいたりです。なので、逆にいないことをむしろ褒めて頂きたいぐらいの話なんです。

区役所の仕事は本当にいろいろありまして、座ってるからさぼっているわけでもないんですけど、働いているのか、さぼっているのか、見えてこないですよね。そういうところはもう少し市民の皆さんにわかるように、また誤解を招かないような見せ方も大事だと、思っております。

それから徴収の話で、困難な仕事から逃げているのではないかという話もありましたが、 ここは一概に否定できないところがありまして、結局徴収率が低かったということは、そこ に気張って、頑張っていなかったという事が確かにあると思います。

それから保険料の滞納者に対して自動的に保険証を召し上げていたのも千葉市ですね。政令指定都市で最も召し上げ率が高かったのがこの千葉市です。これは、どこまでやるかということもありますが、親切に応対をして、見極めていって、本当に滞納をしている人に対して召し上げるんだったらわかりますが、その辺についても、きめ細やかさが足りなかったのは事実ですから、もう少し現場の最後のところまで見て、その上で判断をするという、そういう考え方が必要ですし、今、徴収本部は東京都などの徹底したやり方、最後までやり切るそういうやり方を見て、彼らは相当方針を変えて、確実に徴収率は上がってきています。これを何とか続けて強化していく事が、大事であろうと思っております。

加曽利貝塚の話ですが、今ある資産を大事にするというのが大切だと思います。お金がないですから、新たなものを作るのではなくて、今あるものを大事にして、どれだけアピールをしていくかということが大事だと思っています。

加曽利貝塚の話は非常に難しくて、私も議員時代に加曽利貝塚の世界遺産化について若干取り組んだ人間ではあるんですけど、世界遺産にするにあたっては、そのまち、その遺跡の周辺の部分も含めて、一体となっている必要があるんですね。残念ながら加曽利貝塚は入口付近がもう住宅街なんです。そこの部分も含めて、バッファゾーンというのですが、加曽利

貝塚を世界遺産にするためのテーマ、考え方に周辺地域も含めてそのような景観になっている、そういうことが一つの条件になっているところがあるんです。それを考えると、世界遺産にするには相当ハードルが高いですね。

だから、世界遺産にするのを諦めるべきだとまでは言いませんが、世界遺産にならなくとも、日本が世界に誇るべき加曽利貝塚という遺産を、どう活用していくのか。これは行政も知恵を絞らなければならないですし、市民の皆様も、まず住んでいる人たちが自分たちのまちの遺産についてきっちりと知って、その価値を多くの人たちに知らしめていくための活動をどれだけやっていけるかというのが、非常に重要になってくると思っております。

【市民J】

先に、千葉市の財政力が豊かだと仰いましたが、私の感覚では広島とか横浜の方が良かろうと思うんですが、これはどういうことなのですか。

それとその豊かさが今後も続けられるのか、ちょっと知りたいです。

【熊谷市長】

確かに難しいところはありますけれども、千葉市の場合は市民一人当たりの納税額も高い方ですし、それから他の政令市に比べて、少なくとも5年、10年の間は、平均年齢が低いです。当然、高齢者に対する負担の割合も低いです。

それから最近話題になっている生活保護の割合も、千葉市は低い方です。首都圏は比較的低くて、関西とか西の方は高いです。生活保護は毎年出て行く巨額なお金ですので、生活保護率が低いということで、どちらかというと、まだ恵まれている方の大都市という位置付けがあります。

あと 10 年か 15 年で高齢化が一気に来ますので、他の政令市と同じになりますが、少なくともこの 5 年、10 年に関しては、比較的恵まれた環境にあるという状況でございます。

【市民J】

それは、入る事より出る事が少ないということですね。

【熊谷市長】

そういうことです。

それでは、もう一度自由なテーマで、スタートしていきたいと思っております。

【市民 K】

市民科学を目指して活動しています。放射線の人体影響ということを人に話しているんですけれども、そういう面から環境と健康ということでお伺いしたいんです。

こういう質問は、多分どこへ行っても出されていないんじゃないかと思うんですが、千葉は茨城と隣り合っていますよね。あそこに大きな原発があります。100万kwの原発があるんですけれども、例えばあそこで事故が起こった場合に、北風が吹いていると放射能は千葉市に来ると思うんです。そういう想定とか、その対策はやっているかという事なんです。

100km も離れているから大丈夫だという考えも、あるかも知れないんですけれども、チェ

ルノブイリで事故が起こった時に、一番初めに外国で放射能が見つかったのはスウェーデンなんです。1500km も離れている所です。ヨーロッパ中が汚れたわけです。

日本は地震がすごく多いし、今、新潟県で7基止まっています。東海地震もあるかも知れない。千葉は原発がないですけど、県境で放射能が止まるわけがないので、そういう時、15歳以下の子どもたちにヨウ素剤を配るとか、立地県はやっている所もありますが、自分の県に原発がない所ではそういう対策をしていないし、放射能を想定した防災訓練を殆んどしていません。

どういう事を想定して、何をこれからなさるかということを、お伺いしたく思います。

【熊谷市長】

個別のテーマですが、広い意味で防災ですので、防災について意見をという方がいらっしゃいましたら、お願いします。

【市民L】

防災備蓄倉庫について、美浜区の磯辺と高浜を見せて頂いたのですが、私の想像を絶するような、品物があんまりないという状況だったんです。倉庫たるもの、毛布とかがたくさん入っているのかなと想像しておりましたが、教室の片隅に20ぐらいのダンボールが積み上がっていたかと思います。私としては、これで対応できるのかなと思いました。その辺の対応をお聞かせください。

【市民M】

千葉市には安心安全ネットがあります。私はパトロールをやっておりますから、これを活用しているのですが、大変いいんです。防災防犯ネットワークということで、パトロールの人なんかは関心を持って活用しております。

これが縦割りだというのは、市民の安心安全ネットワークということであれば、衛生、医療、それから食料、食品、これが入って安心安全ネットワークということだと思いますが、 半分しか実現していません。

千葉市は餃子事件の発祥の地です。インフルエンザの問題、麻疹の問題だとか、衛生、これを今どのように市民に知らせるのかと思います。特に都賀の台なんかは老人ばっかりなので、そういう人にパトロールを通して知らせてあげたいと思うんです。

安心安全には、衛生、医療は別枠なのか、全然入っていませんので、これを一本化して、より充実した市民安心安全ネットワークを、情報を気楽に知る事ができる、昔の町内会ではないけども、それを皆さんに知らせてあげる、一本化したネットワークを作ってほしいという事です。

【熊谷市長】

安心安全ネットワークとは、具体的にどのようなものを差していらっしゃいますか。

【市民M】

今、市のやっている防災防犯ネットワークのことです。

【熊谷市長】

はい、まず原発は、具体的な危機の例を上げれば切りがありませんので、具体的にすべて 細かいことをシュミレーションしている訳ではありませんが、科学的な危機に対する対処マ ニュアルはございます。そういうものも含めて、われわれは検討していかなければと思って おります。そこはご安心を頂きたいと思います。

ただ、防災訓練については実効性を高めていかなくてはならない、と思っています。私は 阪神大震災の被災者ですけれども、私自身体験した人間として、やはり本当の意味で有事を 想定していない、訓練のための訓練をやっていると、何の役にも立たないんです。ですので、 防災訓練をいかに実効性のあるものにするかということと、行政とか関係者だけがやるので はなくて、どれだけ地域の人たちを防災訓練に巻き込んでいけるのかということが、課題だ と思っております。

防災備蓄倉庫ですけれども、学校とかいろいろな所に分散しているので、防災備蓄倉庫の中身をもってどうだというのは難しいところもありますが、防災の観点で言うと、何が最も必要なのかという見方もあると思うんです。

一番大事なことは、今は、阪神大震災以降はどちらかと言えば民間、セブンイレブンだったりイオンだったりしますが、全国的なネットワークを持っているところが、災害が起きたら、半日以内にその場所において通常通り営業ができるとか、もしくは被災地に対しての支援をするという体制が、完全に整備できているというんです。行政が食料を馬鹿みたいに備蓄して、2年経ったら捨てるとか、これは税金の無駄遣いなんです。それよりは、そういうところとちゃんと提携をして、いざという時は何万食という契約を事前にしておいて、腐らせないというのが本来は重要になってきます。

阪神大震災を経験しましたけれど、一番大事なのは水とか、毛布とか、オムツだったりするんです。そういうところを市として持っておいて、民間の方と提携で済ませられるものとの切り分けが、非常に大事だと思っております。

安心安全ネットワークについてですけれども、これは非常に難しいところですね。確かに 安心安全という観点で言えば、医療だったり衛生が入るのは当然なんですが、そうするとど んどん広がってしまいますので。システムの費用も莫大にかかりますので、そこはどのやり 方が一番いいのかという事だと思います。

逆にわれわれとしては、そういう関心のある方々を、衛生分野での地域ネットワークにどうやって取り込んでいくかという事が、大事だと思うんです。昨日出てきましたが、ボランティアをやりたい人はたくさんいるんだけれども、ボランティアの人たちの仕事場を、必要とする人たちと出会えるような場を作ってほしい、マッチングシステムとよく言いますが、そういうものを作って下さいという話がありました。そういう中で、防犯だけに限らず安全安心、衛生や医療についても、汗をかきたいという方々に対して必要な情報を出す、そういう仕組みを構築することが必要なんだろうと思います。

それでは、いったんテーマが終わりましたので。順番にお願いします。

【市民 N】

元気で長生きを目指そう会という同好会ですけれど、平均年齢79才の人たちの健康体操や

何かをいきいきセンターでやっています。そこに入っている人たちが、最近出てこなくなったんです。その人たちは千城台東の人ですけれど、話を聞きましたらモノレール代が高いって言うんです。来るのに 210 円かかるんです。往復 420 円は老人にとっては大変なことのようです。

それにつけても若葉区の交通網は、貧弱だと思います。先日、ちば美香苑というあんしんケアセンターに行ったのですが、あんしんケアセンターは若葉区に2つあり、一つはシャローム若葉でもう一つがちば美香苑なんですが、ちば美香苑に行くには電車に乗って鎌取まで行きまして、それから行かなくてはならない。それが若葉区の状況なんです。

若葉区は、今から7、8年前に住みやすい地域のアンケート調査をやったんですが、若葉 区はビリの方でした。どうしてかと言うと、交通網が悪いからなんです。先程の話ですが、 だんだん人口が減っていく地域の代表が、おそらく若葉区だと思うんです。それは交通網が 悪いから出て行くという形になっているんじゃないかと思います。

この間、千葉市の日がありましたが、モノレールが1日300円だったんです。そうしたら老人で乗った人がけっこういたということですので、これから若葉区を特徴づけるためにも、交通機関をしっかりして、老人も何とか動けるようにして頂きたいと思います。

【市民O】

若松台団地は 500 戸くらいの団地、高齢化団地です。団地におりまして、防災などでちょっと心配だなと思うところは、最近、光ケーブルのようなものが電信柱の下の方に着いていることです。電気屋からみたら、加重的に持たないと思うんです。片方だけの加重ですから、そこに地震がその方向に来たら、多分震度 5 で倒れると思います。

地震で一番大事なのはライフラインの確保ですが、道路に向かって電柱が全部倒れる訳です。そうすると救急車も行けません。先程の食料を貯めておくという問題もあるんですけど、この問題は多分誰も検討されてないんじゃないかなという気がします。

一番いいのは地中化ですけど、それは金がかかります。と言ってもヨーロッパなんかは全部地中化です。専門家に強度計算を一回してもらって、震度いくらまで耐えるか、それに対して何か対策があるのかというのを、ぜひやってもらいたいと思います。

それから地方分権は、市であり市民であり、結局はわれわれの働きが大事になるということで、要は千葉市が市民に対して何をやったではなくて、市民が市に対して何ができるかという話になると思います。そういう意味で団地の自治会、ひいては区役所の働きは非常に重要になると思います。と言って、自分個人として動き出す具体的なものがないので、ぜひ啓蒙活動をお願いしたいです。

それと、オバマ大統領が言っていますが、スマートグリッドですね。千葉市というのは、 構想というか、10年先、20年先に向かって、夢だけでも追い続ける必要があるのでないかと 思います。

【熊谷市長】

ありがとうございました。

いろいろご意見頂きましたが、交通政策というのは重要な事ですので、交通に関する事でご意見のある方は、挙手をお願いします。

【市民P】

以前は東京にいました。先ほど熊谷さんが仰ったように、絶対千葉市じゃなくちゃいけないということで来たわけではなくて、いろいろ代替地を探して、ここにやっとたどり着いたわけです。魅力としては、当時、モノレールが環状的にできて、非常に利便性が良い、非常にアクセスも良い、そういう計画があるようにお聞きしまして、即決いたしました。

以来30年経っている訳ですが、残念ながら、やっぱり千葉市が良かったなあと思えることが、ゼロじゃないのですがあまりに少ないです。そういう中で、自分なりにいろいろ考えてみますと、さっき仰ったように交通網ですね。整備がなぜか遅れて、どんどん陸の孤島みたいになってしまっています。例えば京葉線ができて、いいなぁと思っていたら千葉には止まらない。それと地下鉄ができたなあと思ったら、津田沼で止まってしまう。結局千葉のターミナルは通過すらせず、別の路線が走ってしまう。

ということで、せっかく近くまでアクセスできるものができているにも関わらず、千葉を 通らない。そういうことを考えますと、設備投資が多少かかってしまうと思いますし、技術 的な問題もあろうかと思いますけども、ぜひ 10 年のサイクルの中では、そういう交通網は近 くまで来ているものを、千葉駅に止まるような形で、利便性を良くして頂ければと思います。

【熊谷市長】

ありがとうございました。

まず交通政策についてお話させて頂くと、私が危機感を持っているところのひとつです。 人口が減っていくと、市のバスではございませんで民間のバス会社ですから、そうなってく ると、儲からないところはやらないわけです。そうすると人口が減っていくということは、 乗客が減ってくる、乗客が減ってくるということは、赤字路線になる。そうすると、彼らは 躊躇なく撤退していく。という流れになるんです。

では、代わりにコミュニティバスみたいな形で市がバスを走らせるかとなると、10年後、20年後、恐ろしい数のコミュニティバスを運行しなければいけません。そうすると、毎年すさまじい金額の税金が出てしまう、ということになります。そこについて、真剣に考えなければならない時期に来ているのだと思います。

ですので、われわれ自身もバス会社との協議の中、どうバス路線を維持していくのかということは、将来のまちづくりに絶対に必要な考えです。

それからもうひとつは、市民の皆様方もバスに乗らないとバスが無くなってしまうということを、考えていかなければいけない時代だと思います。今は車に乗っている方も多いですけれども、私としては極力、公共交通に乗って頂く必要があるだろうと思います。なぜならば、自分が車に乗れなくなった時に、自分たちが使える交通網を残すためにも、乗らなければいけないんだということを、交通網も市民がある程度維持し、育てていかなければいけないんだということを、やはり考えていかなければいけない時代だと思うからです。

将来にわたって危険になりうる路線について、われわれは正直にある程度データを市民の皆様にもお出しをして、それぞれの地域ごとに、それを維持するために一体どういうことを考えていかなければいけないのかとか、地域のまちづくりを考えていかねばならない時期だろうと思っています。

モノレール代が高いというのは、私もモノレールに乗っていますのでよく認識しております。確かに、空気を運んでいるぐらいだったら、安くても乗せた方がいいんじゃないかという議論もありますし、そうやってしまうと減収になるんじゃないかとか、さまざまな議論があります。いずれにしても、モノレールに多くの方が乗って頂くための工夫はしていかなければいけないだろうと思います。

モノレールに関しては社長も公募をしますし、抜本的にモノレールについては考えていかなければいけない時期にあると思っています。モノレールがもっと地域の行事にも顔を出すなりして、身近に感じて貰うような企画が大切です。市民の日みたいな企画をもう少し増やしていくとか、さまざまなことが十分あり得るだろうと思っております。

それから、電柱の話ですが、これはちょっと個別の話になりますけども、一応、電柱を使う時っていうのは、申請にて把握しています。乗せて地震で倒れるようなものを許可しているかというのはちょっと考えにくいのですが、確認はさせて頂きます。しかし電柱は民間なので、どこまでできるかというのは、NTTとか電力会社ですとか、国レベルでの話になるかと思います。

スマートグリッドの話もありました。市という単位でどこまでできるかというのはありますが、確かに将来を見据えて、それこそ 10 年、20 年、30 年というスパンで考えていかなければという思いもあります。

【市民R】

鳩山さんが言った25%を守るためには、絶対それをやらなきゃならなりません。

【熊谷市長】

確かに仰る通りです。CO₂を削減したり、環境対策を進めるためには、今まで以上にわれわれも未来を見据えた政策が必要ですので、EV の車の話も含めて、考えていかなければならないし、環境問題は非常に重要なテーマだと思っております。

【市民S】

台湾に新幹線ができましたけれど、65歳の人は、子どもと同じで半額なんです。そういう 事も参考にして、老人は子どもと同じ半額というのは良いと思います。

例えばさっき貝塚の話が出ましたが、都賀から桜木までは 190 円なんです。相当高くて、来た人はビックリすると思います。歩いて 15 分くらいのところ 190 円もかかる。そういうような状況です。勤めている人は、交通費を定期代として貰っているから全然わからない、あるいは車に乗っている人はわかりませんけれど、モノレールに乗っていれば、その高さにびっくりすると思うんです。

逆に、千葉から県庁まで行ったんですけど、バス料金は 100 円なんです。あまりにもアンバランスで、じゃあモノレールはいくらかというと、190 円なんです。それでは乗る人がいないです。そういう状況ですので、モノレールの料金体系を考えて頂きたいと思います。

【市民T】

千葉市東部地区は、緑豊かな自然環境が特徴で、鹿島川流域 15 町 18 自治会、4100 ヘクタ

ールを対象に、農業の振興と交流、地域の活性化を目指すという事で、現在進行中の千葉ビジョン 21 の中間目標が、3 拠点整備ということで進んでおります。

そして、整備が進むにつれ利用者が毎年増えていくと思われますが、もう少し、10年後のまちづくりということで、今後より一層の住民の交流を図るには、拠点整備が大切で、文化ばかりでなく緑豊かな東部地区の、都市住民の拠点巡りですとか、または鹿島川でのサイクリング、ジョギング、市内散策など、若葉区の東部地区は水と緑が大変豊かですので、来てくれる人もあると思います。そういった、緑と水、そして自然環境の利用推進事業を考えて頂ければと思います。

【熊谷市長】

ありがとうございました。

実は、この若葉区と緑区に関しては、そういう議論をぜひしたいなと思っていました。こういう地域があるということが、他市にはない千葉市の魅力だと思っております。若葉区だったり緑区の農業だったり、緑、水、そういう環境について、どうやったらそういう人たちが来るようなものになるのか、それは、整備っていうものも大事ですけれども、誘導策とか周知ですとか、ぜひご意見あるという方がいらっしゃいましたら、手を挙げて頂きたく思います。

【市民 U】

グリーンビレッジの推進に関わり、コスモス祭りやコスモスボランティア、里山ボランティアに関わってきております。富田町を中心に活動が広がっております。

その中でも富田町の農家の専業の方は、5、6軒と少なくなっておりまして、後継者不足という事はどこも同じですけれども、その中で、コスモスとか、里山ボランティアの関係で、地元の人たちと交流が広がって、使っていない農地を一般の方にお貸しして、農業指導をやって下さるんです。ちゃんと専門的に地元の方たちが班を受け持って指導して下さるということで、本当に盛んになっているなあと思います。

それからコスモス祭りのコスモスボランティアも増えておりますし、こういうことで緑区とか若葉区はとっても良い環境ですので、そういうことをもっと広げていかれたらと思います。みつわ台にも貸農園がありますけど、それはちょっと小さいですが、それもよろしいかと思います。地元の方と農家の方の交流方々、少し大きめの農地の利用を一緒に考えていければと思います。

私なんかもそうですが、退職された方、高齢になられた方が多い中で、とってもいいこれ からの事業になるんではないかと思っております。

【熊谷市長】

ありがとうございました。他に緑、自然、農業のことでご提言ございましたら。

【市民 V】

やはり千葉市に住みますと、山が見えないことがとても寂しいです。そのぶんを緑、農村 部の緑ですとか、まちの中の緑を大事にすることでカバーしていけたらいいんじゃないかな と思っています。今出ていましたように、農村部との交流ということをもっと進めることが 大切かと思います。

今、コミュニティバスが若葉区を3本走っていますけど、そういうところも重要だと思います。また農村部ではないですけど、加曽利貝塚のことが出ておりましたが、坂月川の縄文の森構想ですとかそういうところも、まちの中の緑も保全するという事を考えながら、みんなが滞在して幸せに過ごせるような、まちを考えていけたらなと思っております。

まちの中のことも申し上げたいのですが、千葉駅からきぼーるですとか、千葉市の美術館ですとか、ちょっと距離がございまして、ぽつんぽつんって感じなんです。ですから千葉駅からそこまでいい具合に行ける道づくりですとか、中央公園を経てきぼーるに行くような、商店街とも組んだまちづくりも重要かと思います。

滞在して、自分が喜んで迎えられているという感じが持てる、まちづくりが良いと思います。農村部についても、まちの中についても、そんなふうに考えていけたらいいんじゃないかなって思います。

【熊谷市長】

ありがとうございました。もうおひと方、お願いします。

【市民W】

鹿児島から引っ越してこられた、近所の人から聞いた話なんですけれど、千葉市にはいわゆるはとバスがないと仰るんです。要するに千葉市に来て、どういうとこに何があるかわからないということです。

例えばグリーンビレッジもあるし、貝塚、貝塚以外にもいろいろあります。そういうところを、県外の方に知って頂くような、無料で回れるバスみたいなものを運行したらどうかと思います。定期的でなくてもいいのかもしれませんけど、そういうのを募集してですね、千葉市を知って貰うような PR を、積極的にやる必要があるのかなと思います。

【熊谷市長】

ありがとうございました。

緑、それから農村部と市街地の交流がテーマになってくると思います。そこの魅力をアピールできて、初めて千葉市に住んで良かったとも思いますし、千葉市に逆に住みたいと、船橋、市川じゃなくてあえてここに住んで、引退してから、リタイアしてからも楽しいし、仕事をしている人も週末十分に憩える環境が身近にある、そういうようなところをアピールしていくことがやはり大事だろうと思います。

魅力の話もありましたけれど、確かに魅力ある場所は結構あるんですけれども、なかなか知られていないところがあります。それを、巡回バスというのもありますし、それ以外にもどうやって見せていくのかっていうのが大事です。中心市街地に偏ってないところがありまして、分散しているのが千葉市の特徴ですので、それををどう繋げていったり、PR していくのが現実的なのかという事が、今後の議論だと思っております。

中心市街地の話がありましたけれども、そうなんです。ちょっと遠くて、どこを歩けばいいのかが実はわからなくてですね、結構ゴミっとしたところを通ったりとか、車がビュンビ

ュン走っている横を通らなければならないとかがあります。そのあたりの人の流れの作り方と申しますか、そこが大事だと思います。それと、千葉市に来て思うのは、案内が非常に少ないというところです。わかっている人しか行けないというところがありますので、この近くにこういうのがあるんですよという事を、もう少し表示していくような仕組みも、私は必要なんじゃないかと思います。

【市民X】

憩える場所というのは、確かにたくさんあります。そういうところに、自転車でずっと入っていけないね、という声が出たんです。私たちはみつわ台に住んでいますから、中心地からそんなに遠くないですが、そこからですら、自転車では中心地の方に行けません。大変ですよ。だから本当に、この道の整備をして頂きたいなと思います。歩けるまちづくりというか、そういう形にして頂けたらいいかなと思います。

私は、助け合いグループをずっとしてきております。主婦たちが集まって、自分たちのできる助け合いということで、介護保険を優先して頂いて、保険で受けられないところの隙間のところをお手伝いしようという事で、細々とやっております。

有償のボランティアという形でやっておりますが、先日千城台の市営住宅に住んでらっしゃるお一人住まいの女性の方から、お電話がありました。ファンヒーターにスイッチを入れようとしたら、白い煙が出ちゃって、ビックリして困ったんですという事なんですね。まず社会福祉協議会にお電話され、社会福祉協議会が、有料でそういったお手伝いしてくれる人ということで私どもを紹介して、私のとこに来たんです。結局私がその女性を訪ねて、もう寒くなっていますし、ストーブがないと厳しいですという事で、石油のタンクをきれいにする仕事をしたんです。

そういった困った方が、それが社会福祉協議会の仕事かどうかはわからないんですけれども、やっぱり何らかのアクションを公的なところがやってあげないと、ここでずっと暮らし続けたいなという高齢者の方が暮らしづらいと思います。ずっと年取っても暮らし続けられるまちにしていきたいと思っていますので、そういう仕組みづくりをよろしくお願いします。

【熊谷市長】

ありがとうございました。

ちょっとそこは難しいのかなという気も、若干しないではないです。公的機関が全部そういう困ったことを引き受けてしまうと、どんどんコストが高まってしまいますので、それは 時代としては無理なんだろうと逆に思うんです。

【市民X】

だからといって、すぐ投げてしまうっていうんですかね、民間に渡してしまうのもどうかなと思います。

【熊谷市長】

ちょっと難しいところがあります。確かに、最初に受けたところで全部完結するというの が美しいです。利用者目線からすれば、確かにその通りです。けれども、ただそれをやって しまうとたぶん持たないです。逆に言えば、そういう問題に対して、互助の精神でどれだけ そういう振り分けができるかっていうのが、社協の役割になるんじゃないかと思います。

それと前半で仰られた自転車の話は非常に重要でして、車社会から脱却するという事だと 思うんですも。自転車道の設備も含めて、これからの社会の方向性は確実にそうなってくる とは思います。

そういう中で、例えば自転車なり歩いてというところの中でもし、ご意見がある方がいらっしゃいましたら、お願いをいたします。

【市民Y】

免許もありませんので、どこに行くのも自転車です。

千葉市にはよく、走っていると途中で止まっちゃう道がたくさんあるんです。例えば、今 みつわ台の方が言ったように、動物公園までは大きな道路があるけどそこで消えてしまいま す。16号には出られず、出るために回らなくてはいけません。だから稲毛に行くのは大変な んです。

みつわ台もまっすぐこちらの方へ来ると、酒屋さんの前で道が止まってしまって、あとどこ行っちゃうかわかりません。そういう道がたくさん実はありまして、自転車道路がはっきりありませんので、サイクリングに行きたくても行けません。まずサイクリングの人が乗れるような道をしっかり作ってほしいと思ってます。ドームを作るなら、しっかり道路に結び付けてほしいです。途中で消えたり、止まるような道路じゃなく。

緑のことですが、原町には広大な湿地帯があります。これは市が持っています。何万坪もありますが、雑草が生えているだけです。十数年間ずっと放置されています。貯水池と称していますけど、何に使うんだかよくわかりません。

ごみの問題もあります。私は町内会でゴミをやっております。千葉市の場合は、ブルーシートで道路にゴミを出しております。私のところは町会がゴミ出しステーションを作って、ゴミ問題を一生懸命やりました。そして、市がやってくれないので、みんなでお金を出し合って、組み立て式のゴミステーションを買いました。

ところが市の環境課からは、そんなもの置かれちゃ困るんだと。しょうがないから目はつ ぶってやると。そんな言い方をされまして。じゃ、市はどうすんだと。町内会に丸投げです かと聞くと、ゴミステーションは町会でやって下さいと、そういう回答が来るわけです。

環境事務所もどこにあるのかと思ったら、鎌取だそうです。鎌取までどうやって行くんだ と思いました。例えば、若葉区の郵便局は中央区役所にあるし、稲毛区も美浜区に行かない と郵便局がないとか、保健所も政令指定都市としてちゃんと整備されていないとか、そうい った、本来政令指定都市としてきちんと整備すべきところをほとんどすっぽかして、千葉市 の場合はやっいるように思います。

さっき言ったように、千葉市というのは大きい工場ばかり作って、道路も中途半端です。 その辺からきっちり、市民の生活に結び付く行政にしてほしいと思います。

タウンミーティングはすごくいいです。ただし、もっと身近なテーマに絞って頂くと、もっと話がわかりやすいです。やはり、10年後の財政の話をされてもなかなか市民はわかりませんので、やっぱりわかりやすい生活に結び付いたテーマをもっと出して頂きたいと思います。もっと細かくやってほしいとも思います。

それからもっと市長の前に行って話をしたいですね。この座り方では、かなり遠いです。 市長の傍にいちゃいけないみたいです。もうちょっと配慮して頂きたいと思っております。

【熊谷市長】

ありがとうございました。

自転車の話は、われわれもこれからの課題だと思っており、自転車道の整備という事でやっていくことになります。

それからゴミの話は、非常に象徴的な話でしたけれども、そもそも自治会というものを今後どういうふうに位置づけていくのかも問われてくると思います。自治会というと私も役員でしたけども、自治会の弱体化、高齢化というのは著しいと思います。これを何とかして支えることをしていかなければいけませんが、一方、自治会に全て頼む今のシステムは、おそらく早晩息詰まるのは確かだと思います。

ですので、そういう市と連携する際の地域の代表なり団体というものを、どう位置づけていくのかも、私は問われてくると思うんです。他の市を見ても、例えば中学校区で考えて、自治会だけじゃなくて、NPO、PTA など全てを入れて、まちづくり協議会のようなものに置き換えているところも、出てきております。そういう意味においては、これからますます、この地域単位の考え方も、われわれは考えていかなければいけないと思っております。

それからこのタウンミーティングのテーマですけれども、なぜこれかというと、細かいテーマになると、それこそまとまらなくなってしまうという恐れもありました。とにかく最初ですし、10年後、20年後というまちづくりを考えていくことが大切と考えました。

これからやらなければいけないのは、細かいテーマも大事ですけれども、細かいテーマを 思うあまり、例えば、環境にこだわっている人は環境のことをとにかく最優先にしろ、子育 ての人は子育てのことを優先にしろと、そういう事をやっていってはですね、結局のところ まちづくりは、俺はこれが一番だから後は行政が考えろっていう話に、なっちゃうと思うん です。

それであっては結局のところ、上下関係はいつまで経っても変わらないです。そうではなくて、財政についてもある程度、別に専門的に知ってくれという事はないですけれども、ただ、そういう前提、市と同じくらいの考え方を持った上で、本当にこの配分でいいのかとか、こういう方向性、重点的な配分でいいのか、ということについて、極力多くの市民が考えていかなければ、いつまで経っても同じことの繰り返しだと思うんです。

ですので、あえて今回、ちょっと大き過ぎるよね、という事を言われるのは覚悟の上で、こういう市の全体像をお示しした上で、千葉市の計画について考えたいと思いました。地域の話は、別途来年度からまた細かくやりますけれども、全体の話をやりたいという事で、こういうテーマでやらせて頂いているという事をご理解頂ければと思います。

時間も残りわずかとなってまいりました。まだ発言されてない方もいらっしゃいますので、 お願いいたします。

【市民 Z】

熊谷市長さんのブログを拝見させて頂いています。ランチミーティングやタウンミーティング、本当に活動が前向きでバランスよくやられていますし、こういった機会を作って頂い

てありがとうございます。

逆に言うと、今まで千葉市は何をやっていたんだろうという感じもします。暗い話題がなにかと多いので、これからのまちづくりについてという事ですが、先ほどから話に出ていますけど、住政策をしっかりさせるということですね。千葉市に住みたくする、幸福度を高くするということが、幸せになるっていう感覚が、千葉市に住んでいると一人ひとりが持てるというのが、大切だと思うんです。

今まで千葉市は、箱物をたくさん作ってきました。これからはそれを利用するソフトが大切だと思うんです。それをやるには、やっぱり人を育てる事と、やり方を変えるという事を、費用対効果を考えながらやっていかなきゃと思うんです。

で、それをやるためには、具体的に、いろんな幸せ度を高くするためには、例えば名誉市 民制度を作るとか、職人のマスターズを褒めてあげる制度を作るとか、教育なんかも、いろ んなクレームが多い中、教育 110 番というというのを作ってですね、クレームをそこで振り 分けて処理してしまうだとか、いろんなアイディアがあるわけです。

そういったことを考えるために、ブレイン集団といいますか、研究会やフォーラム、シンクタンク、市長の代わりに集まって考えるグループのようなものを、市長の下に作るなり、また、本来なら地域にいる市議が中心になって、シンクタンク、グループを作って、さっきまちづくりの評議会があるという話がありましたけども、そういったものを活発にやって頂いて、人が集まってこういったタウンミーティングのような話をして、市民一人ひとりが実行に移せるという形づくりができたら、面白いんじゃないかと思います。

僕も一新塾に入塾して、今度お世話になりますが、人を育てていくようなグループをつくって頂けたらと思います。

【熊谷市長】

ありがとうございました。

他に何かございますでしょうか。まだ発言されてない方にお願いしたいと思います。

【市民 AA】

老人クラブの会長をやっております。戦争を経験しており、特攻隊の生き残りです。

ここへ来て、千城台へ来て 40 年以上経ちます。東京生まれで東京育ちです。だから、便利さということをよく知ってます。千城台に地下鉄を通しますからどうぞ土地を買ってくださいという事がありまして、それならば、東京で地下鉄の便利さは知っておりますので、これは良いと思って、買いました。嘘をつかれました。

結果的にモノレールになりまして、モノレールもぐるっと一回りしますという話でしたが、これも実行されませんでした。熊谷市長も、赤字だからと止めちゃいました。やはり、できれば千葉市の将来的な発展を考えるならば、ぐるっと一回りできればこれは理想的だと思います。理想論ですよ。ほしかったと思っております。こういうミーティングをたくさんやって、多くの人の意見をたくさん聞いて欲しいと思います。

今、千葉市の発展してるところは海岸寄りです。幕張メッセを始め、向こうが発展してます。発展していないのが、農村部といいますか。緑区、若葉区が、発展してません。こういうのを何とかしなくちゃいけないと思うんです。市長の31歳っていう若さに、ものすごく期

待しているんです。さっきの話にいきますと、千葉市に希望が持てないような感じがしちゃ うんですよね。もう、東京に帰ろうと思っちゃうんですよ。東京に家がありますから。

だから、ここに住みたいなと、一生ここに骨を埋めたいなというまちをつくってもらいたいです。そういう計画を作ってほしいんですね。それが熊谷市長の役回りだと思うんです。ぜひそういう形でもって、市全体をいかに良いまちにするか、一つ考えて頂きたい。そういう方向性を打ち出してほしいと思います。

【熊谷市長】

ありがとうございました。もうひと方、よろしくお願いします。

【市民 BB】

長期的なビジョンの中心に、福祉を据えて頂きたいと思います。福祉先進のまち千葉という形ですね。ひとつは行政の立場でいけば、例えば介護を担当する人が、非常に人手不足であるとか、介護の人は収入が少ないから、他の業種に行っちゃうとかがあるようですから、そういったことについても、千葉市の中でもその人たちの待遇を改善する独自の政策はないのかとか、また年を取った方も、障害者も安心して住めるということが、これが千葉市のすばらしさなんだと全国に訴えられるようなことを、中心に据えた長期計画に向けて、考えて頂きたいと思います。

また、もうひとつの方法としては、ボランティアとか、お互いまちの中の住民同士の助け合いを、福祉の面でどう進めるかという進め方を、自治会とかいろんな組織を通じて、地域福祉計画では、市民を巻き込んで作ったようですけど、その計画まではあって、それを実践する手立てもやはり、組織だった形で市民と行政とがうまくタッチしていく体制を持って頂きたいと思います。

それから広報のことについて希望ですけれども、市政だよりの中心に、こういった新たな 取り組み、タウンミーティングやりますよとか、そういった市民に新しい事を呼び掛けて、 市民の参加を巻き込んでいくという事が大切だと思いますので、まずトップ記事に大きく取 り上げるという事が大事だと思います。

お祭りだとか、定例的にやっているものがトップ記事に出ることが多いんですけども、今 回のタウンミーティングについても、ひとつの囲みでちょっと大きく出るとか、インターネットに載せるとかが考えられます。

今回は新たな取り組みとして、タウンミーティングをやりますよってトップページにバーンと出して、また掲載の仕方も、細かい事ばかりグラフなどで盛り込むのではなくて、これをやるっていうのを大きな文字で載せて、細かいことは2ページ目以降に持ってくとか、そういうのも必要だと思います。

市長のメッセージについても、何について、ということがまず大切ですから、まず、タウンミーティングをやりますよってテーマを出して、市長のメッセージってのはその次に小さくつく、というような扱いで進めて頂きたいと思います。

【熊谷市長】

ご意見ありがとうございました。

いろいろ頂きましたけれども、まず最初に住政策、それから人を育てるというお話しです。 名誉市民というか市民の表彰のことを仰ってるんだと思いますが、市民の表彰制度というの は、実はたくさんあるんです。私も市長になって、こんなにあったのかというくらい、いろ んな形で市民の方々を表彰しております。

問題はたぶん、それを多くの方が知らないという事だろうと思っておりますので、市民がどういう事で地域の役に立っていて、それをどういう形で表彰しているのかという事を、多くの人たちに分かってもらえるような、取り組みをわれわれは考えていかなければと思っております。

それから、研究会、シンクタンクということです。また市議が中心となってという意見もありました。おそらくこういうところが、これからの市議会の改革ですとか、市議会の活性化の中で、議論されていくんだろうと思っております。本来、それぞれ専門的な立場だったり、いろいろな背景から選ばれている方々が議員ですから、二元代表制の中で、ある意味シンクタンク的な意見というのも、今後期待されていくだろうと思います。

モノレールの話がありました。モノレールは、環状にしとけばよかったと思いますよ、はっきり言って。ただ、今の財政状況では、実際に環状にするというのは、非常に困難だろうと思います。そういう意味では、やはり長期的に考えてまちづくりというのは、やっていかなければいけないという、そういうことだと思うんです。

海側だけが発展しているんじゃないかとか、確かに私も若葉区などいろいろ行きますと、いろんなこと言われます。そういったところも含めて、さっき話が出ました、若葉区なら若葉区、緑区なら緑区なりの魅力をちゃんと活かしたような形で、市全体として魅力を共有していくという事が大事なんだろうと思います。

将来に希望が持てるようなまちづくりをやってかなければいけないんだ、という事ですね。 どう思われたかわからないですけど、夢物語を言ってたってしょうがないというのも事実な んです。10年後、20年後には、本当に環境が激変します。この環境の激変に上手く対応でき たところが、最も夢を広げられるんです。そういう意味で、今回のテーマというのは全体と しては一貫していたんじゃないかな、と思っております。

介護の待遇の改善は、重要なポイントになってくると思いますけども、安心して長生きできる環境を作らなきゃいけないというのが1番のポイントですので、この介護の部分に関して、当然われわれも介護の人たちの待遇改善という事で、やるべきこともやりますし、あとはどれだけそういうところに、これも市民ボランティアの方々のお力をお願いできるか、そのやり方も工夫のしようとなってくるかと思います。

市政だよりは、これでも変えた方なんですよ。少しずつは変わってきているとは思うんですけど、1面にどこまで市政情報を出していいのかは、われわれも悩みながらやっています。イベントを楽しみにしている人たちがいるのも確かでして、紙面に限りがある中で、無理繰り紙面のやり繰りをしている中で、市政情報を出している状況でございます。これは、もう少しやってみて、反応を伺いながら比重を決めていく話になろうかと思います。

ただ、分かりやすくしろというのは仰る通りだと思いますので、もう少しテーマがぱっと 見てわかるような形で、市政だよりも変えていきたいですし、来年度以降は、この市政だよ りにもう少し市民の編集委員のようなものも入れて、市民の感覚を取り入れようとしており ますので、そういったところでも、市民感覚に合わせた広報のやり方を工夫していきたいと 思っております。

すみません、ちょっと時間をオーバーしてしまいました。

【原企画課長】

すみません、お時間をオーバーしましたので、全体のまとめを市長からお願いいたします。

【熊谷市長】

本当に多くのご意見を頂きまして、ありがとうございます。

発言しきれなかった部分、また3分という短い時間では言い切れないところはあるかと思いますけれども、今日で終わりではございませんので、これからまたワークショップもやりますし、シンポジウムもやります。それ以外にもさまざまな機会を用意してまいりますので、そういった中で、今日をスタートにして頂いて、それぞれ周りの方々とも話をしていきながらやって頂きたいと思います。

市長への手紙について、ご不満だという話もありましたけれど、いろんな形を含めてご意見をお寄せ頂ければ、われわれは、十分にそれを踏まえた上で、計画の策定にあたっていきたいと思っております。

少なくとも千葉市に住み続けたい、また、新たにこの千葉市に住みたいんだという人を増 やすために、われわれが10年間何をしていくのか、また行政と市民がそれぞれ何をしていく のかという事が、これから試されてくると思います。厳しい時代の中でどれだけ頑張ったか が最後生きてくると思いますので、それだけ多くの人の意見と力で、私はこの千葉市をさら に輝かしいものにしたいと思っております。

今日をスタートにして、またさまざまな形で意見交換していきたいと思っておりますので、 今後ともご提言なりご提案を頂きたいと思います。そのことを重ねてお願い申し上げまして、 今日の感謝の言葉とさせて頂きます。

本当にありがとうございました。

■閉会

以上